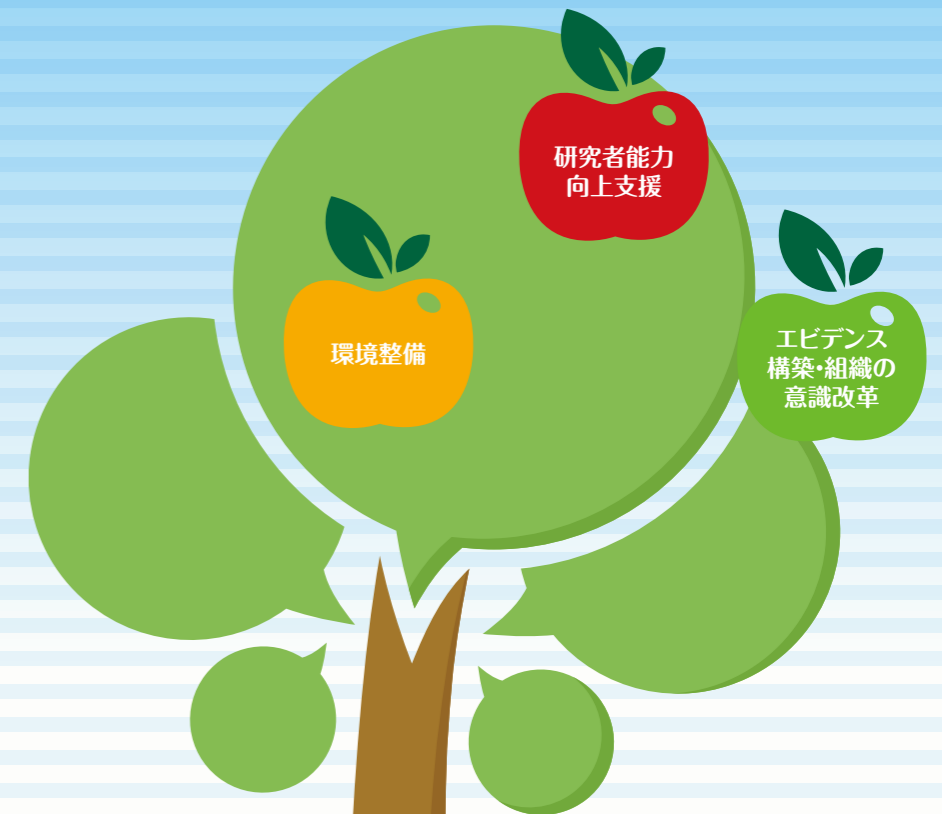


## キャリアアップをめざす 女性のためのヒント



### 帝京大学女性医師・研究者支援センター

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1  
帝京大学板橋キャンパス病院棟6階

TEL:03-3964-8456  
FAX:03-3964-8457

mail: [women@med.teikyo-u.ac.jp](mailto:women@med.teikyo-u.ac.jp)  
[http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support\\_center/](http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/)



### Access Map



- JR埼京線「十条駅」北口下車、徒歩約10分
- JR京浜東北線「王子駅」下車、  
国際興業バス6番のりば 板橋駅行10分、「帝京大学病院※」下車  
※「帝京大学病院」バス停は、周辺道路工事に伴い一部変更となる可能性があります。

# ご挨拶

## 仕事と子育てが両立できる働きやすい環境をめざして

平成28年、帝京大学は創立50周年を迎えました。本学では、時代とともにさらに進化・成長していくためのさまざまなプランを打ち出しておりますが、そのひとつとして、「男女共同参画の推進」が挙げられます。グローバル化が加速する現代社会において、多様性を尊重し、個性豊かな人材が集まる場とすべく改革を進めていくことが、大学のダイナミズムであり、強みとなるからです。

本学では何事にも偏見を排除し、国際的視野を有する人間の育成に力を入れておりますが、組織として、社会を活性化させるシステムである男女共同参画およびダイバーシティを推進していくことは、「実学」「国際性」「開放性」を建学の精神に掲げる私たちの使命であると考えています。

本冊子では、こうした魅力ある社会の実現に向けた取り組みをご紹介します。ご覧いただいた方々にとって男女共同参画への理解を深めるきっかけとなれば幸いです。



帝京大学理事長・学長  
冲永 佳史



## ～ contents ～

greetings	ご挨拶 理事長・センター長からのメッセージ	01
voice-utsunomiya campus	宇都宮キャンパス 女性教員座談会	03
role models	ロールモデル 一覧 ロールモデルINDEX	09
	研究支援員制度を利用して(新井 直子) 研究支援員制度/研究力向上セミナー	11
	事業所内保育室を利用して(小原 千陽) 事業所内保育所 ～帝京大学わかさ保育室～	13
	病児・病後児保育を利用して(井上 まり子) 病児・病後児保育/保育支援	15
	さまざまなキャリアプランを支援する取り組み(川村 雅文) 特色ある取り組みで働きやすさを支援/キャリアアップ講演会	17
	ジャーナル・クラブを利用して(竹之下 真一) ジャーナルクラブ/卒前・卒後の一貫した若手の人材育成基盤	19
	メンター制度を利用して(高田 裕子) メンター制度/男女共同参画について考えるキャリア教育	21
	組織の意識改革～男女共同参画推進委員として(金子 希代子) 男女共同参画推進委員会/男女共同参画推進シンポジウムの開催	23
	組織の意識改革～エビデンスの構築(野村 恭子) アンケート調査・エビデンス構築/女性医師・研究者支援センターによるニーズ調査の一覧/論文・学術発表	25
about us	さまざまな制度一覧 制度一覧	27
	女性医師・研究者支援センターとは 理念図/実施体制/各種コミュニケーション	29

### センター長からのメッセージ

女性医師・研究者支援センターは、女性研究者が能力を最大限に発揮できるよう支援することを目的に、平成25年開設され、同年、文部科学省「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択をうけ、活動を進めてまいりました。

昨年「女性活躍推進法」が成立し、平成28年4月1日からは企業組織に対し女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが新たに義務付けられることとなりました。

社会的にも女性の活用・登用に対する機運が高まりを見せている今、こ

うした追い風を力にしながら、女性研究者支援活動にさらに注力していきたいと考えております。

少子高齢化や、医療崩壊など、日本の社会はさまざまな問題を抱えていますが、この状況を打破するのは、女性の力であり、女性がいきいきと活躍する姿こそが社会の活気につながっていくと信じております。

今回この冊子においてご紹介したロールモデルが、これからキャリアアップを考えている女性研究者や、未来の研究者の皆様の参考となり活用されることを願ってやみません。



帝京大学常務理事・副学長  
女性医師・研究者支援センター  
センター長  
冲永 寛子

# Voice 宇都宮キャンパス 女性教員座談会

女性研究者の在職比率向上のため、ポジティブ・アクションを実施した宇都宮キャンパス。そんな宇都宮キャンパスで働く女性研究者の皆様にお集まりいただき、お話を伺いました。



 <p><b>田中瑠美 助教</b></p> <p>総合基礎科目 日本語教育課程 留学生のための日本語・文章表現担当</p> <p>2004年宇都宮大学国際学研究所国際文化研究専攻終了。2005年10月よりパラッキ―大学(チェコ)勤務。2008年11月より帝京大学八王子キャンパス非常勤講師を経て2009年4月より現職。</p>	 <p><b>高山優子 講師</b></p> <p>理工学部 バイオサイエンス学科</p> <p>帝京科学大学卒業後、筑波大学修士課程修了。総合研究大学院大学遺伝学専攻博士号取得。久留米大学にてポスドク、助教勤務を経て、2012年6月より現職。</p>	 <p><b>横山明子 教授</b></p> <p>総合基礎科目 教職担当 キャンパスライフ支援センター</p> <p>東北大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士後期課程(教育心理学専攻)修了。教育学博士。キャリアカウンセラー。</p>	 <p><b>齊藤みどり 講師</b></p> <p>総合基礎科目 英語担当</p> <p>東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専攻修士課程修了。ロンドン大学大学院英文学・比較文学科PhD課程修了。最終学位 PhD in English and Comparative Literature (London) 一橋大学非常勤講師、首都大学東京非常勤講師を経て、2015年4月より現職。</p>
---	---	---	---

## ～女性研究者であること～

みなさんが仕事と家庭を両立する上で困っていることや、工夫していることなどあれば教えてください。

《高山》  
私は赴任して4年目になります。両立できているか？と言われるとあやしいのですが、子どもを連れて来ても先生方や学生さんたちは、「あ～来てるね～」なんて遊んでくれたり。そういう姿を学生も見て理解してくれている気がします。ただ大学の“システム”という形式になると、まず子どもをもった人が仕事をするという前提がそもそもないので手続き一つから構築していく必要があるなあ。と感じます。保育園お迎えの時間もありますので、朝早く来て一限が始まる前に一仕事終わられるように時間配分を調整したりもしていますね。



託児施設や夜間保育の整備などは教員のみならず職員全員の課題になってくるかもしれません。他の大学でも女性をサポートするセクションを作ろうと思うと、まず女性の教授クラスの先生がそもそもいないんですよね。そうすると男性陣が知恵を絞って制度を整えてくださるのです

## 仕事と家庭を両立する上で困っていること。工夫していること。

なかったんですね。教授くらいになるとある程度、お子さんも手がからない時期になるのですが、ここでは高山先生が初めてになるかもしれません。そういう意味では環境を整えるという取り組みがこれから本格的になっていくかもしれません。実験を伴う専門課程は拘束時間も長くなってしまいますので、そういう理解もした上で、制度を構築していきたいですね。

《田中》  
今は育児休暇中なのですが、来年復帰予定なのでいろいろ不安です。正直なところ、初めての子育てなので、これから何が大変になってくるのかもまだはっきり分かっていませんし、仕事との両立・・・予測すらできていないのが現実です。果たして両立していけるのか、心配しています。そんな状況なので、周りの理解や協力、アドバイスがとても心強いです。



《齊藤》  
私は2015年に赴任してきたばかりですので、両立できている！と胸をはって言える状況ではまだないです。家事については、いろいろ便利な時代になってきていますので、頑張りすぎないようにもできるのですが、仕事はそうはいきません。でも、気持ち的に、自分がめざす理想に100%でなくても、それで自分を責めるのではなく、

が、女性が希望するものとギャップがあるものができる。専門で突発的に授業ができない場合、卒研究生を受け持っている場合が一番不安ですね。きっと仲間がサポートしてくれると信じていますが。

《横山》  
実はこちらのキャンパスに、子育て真っ最中という先生は、これまでに



“それ”も許すというふうにしています。もちろん周囲の協力を得る努力は並行して行わなければいけませんけどね。それでも授業の準備は徹夜してでもやっていかなければいけないので家事は週末にまとめてやっておくとか、LMS (Learning Management System = 学習管理システム) をフルに活用するなどの工夫をしています。

## ～女性研究者同士のネットワークを構築・活用すべき～

☞宇都宮キャンパスでは、女性研究者のネットワーキングの場があると聞きましたが、どのようにして始められたのですか。

《横山》

「女性研究者によるネットワーキング」



などと大げさなものではありませんけど、新任の先生がお越しになった際に歓迎会を開いたのがきっかけで、それ以来、少しずつ女性研究者同士のつながりができはじめたんです。皆さんお仕事も家事も育児もあるので飲み会みたいなものはできないのですが、お昼にみんなでお弁当を食べたり……。そうやってコミュニケーションを図っています。

《高山》

違う学科の先生方とは建物も違うし、個別に実験室で研究をしていると、孤立してしまうんですね。そのため、歓迎会にはずいぶん救われました。そこからお茶やお食事など、フレンドリーに悩みや愚痴が言い合えるキッカケにもなりました。もちろんネガティブな話だけではなく、楽しい話もできますから。

《田中》

私は留学生サポートを担当しているので、学生の学科も広くまたがる職制なので、女子会をはじめあらゆる学内の先生、男女問わずにコミュニケーションをとるように心がけています。いざという時、話せる人、環境を作っておくのも必要ですね。

《齊藤》

私も今年赴任してきたばかりですので女子会でいろいろな先生方と知り合うことができて助かりました。横山先生が率先してコミュニケーションを図ってくださるおかげで相談できる相手を探す手段にもなっています。

《高山》

広義の意味でコミュニケーションと言えば、学生・大学院生などからは、いつ結婚していつ子どもを産んだらいいのですか？などの切実で具体的な質問

## やっぱり女子会。歓迎会をきっかけにコミュニケーション。

もされますね。大学院のうちに子どもをもうけたほうが（体力的にも）良いという考え方もあるかと思いますが、その場合は研究者というポジションを得て、持続させるエネルギーも必要になると思います。

答えは人それぞれですが、研究者でいつづけることも含め自分で選択していかなければなりません。私たちが頑張っていくことで、道は次世代にも繋がっていくと思います。テニユアトラック制など研究者を取り巻く環境そのものも変わっています。

《横山》

そうですね。今は雇用の形態も以前とは違います。男女とも期限付き雇用という条件が一般的になっており、助教なら3年とか5年……。いずれはまた変わって定年制の復活もあるのかもしれませんが、やはり期限内に研究業績・結果を出さなければならない。定年制であれば自分の人生設計の中で出産・育児と研究時期をコントロールす

る術もありましたが、今はそういう時代ではありません。特に女性研究者が不安に感じないような環境を作っていくというのがゴールでしょうか。

《齊藤》

研究者として、例えば20代後半から論文を書く作業に7～8年…。女性の場合、それを終えてから妊娠・



出産となると、妊娠の確率自体低くなりますし、危険も伴いますよね。私も40才手前の出産で、無事には産まれましたが、緊急帝王切開などの処置が必要になりましたし、高齢出産がリスクを伴うというのは事実。

相談できる体制なども含め、抜本的な仕組みの検討は必要だと思います。

《横山》

やはり今、我々教職員自らが制度を考えなければいけないんだろうなあ。と真剣に思います。

昔ながらの大学のゆったりした時代から……。今はどこでも同じかも知れませんが、研究者に要求される要素が相当高いものになっているのも事実。業務はたくさんありますし、男女平等のもと教育の部分に限っては女性だからと軽減されるものは何もありません。

それでもここ『宇都宮キャンパス』は所帯も小さく、わりと目が届く範囲が多いので事務の方々へもお願い



## ～女性の声を集めて、働きやすい環境づくりを～

し理解してもらっている部分も徐々に増えてきています。

今後は『女性医師・研究者支援センター』とも、より緊密に情報を共有し連絡を取り合いながら具体的にどうして欲しいなどの要望を伝えていくなど、今より前進させて行かなければなりませんね。

《高山》

入試関連業務も始まります。理工学部は今、特殊な入試になっていまして、推薦やAOになるとプレゼンテーションが必須になっています。高校生にプレゼンをさせ、我々は面接官として立ち会わなければなりません。相手は現役の高校生などですから必然的に土日の作業になってしまうわけです。私立大学ですので入試の回数も地方への対応も多くなります。その際、バイオ系の志望であればやはりバイオの先生がプレゼンに立ち会うことが望ましいのは当然ですし、なおかつ二人体制がルール化されています。それはそれで

納得できるのですが、専門の先生は多くありませんし、結果出張の回数が増えてしまうんですね。入試業務一つ取っても、子育て中の女性（もちろん男性）教員が土日や出張までして立ち会うなどの想定までされていない。もちろん出張に行くのは全く問題も異論もありません。でもその際、子どもをどうするか……。幸い、うちはまだ子どもも小さく実家に預けることが可能な環境なのでなんとかやっていけていますが、実際に子どもを預けに行き、そこからの出張となると、最初の頃は「そこからの旅費は出ません」と言われました。じゃあ子どもはどうしたらいいの？今は理解してもらえるようになりましたが、最初の頃は杓子定規な感がありましたね。宇都宮キャンパスも制度の「枠」だけはできているのですが実際の運用となると（細かいコトばかりになってしまいますが）さまざまな実態に即しているかと言えば、まだまだ「道半ば」といった感じがします。

事務方の職員さんが制度を的確に運用をしていかなければならない事はもちろん理解していますが、柔軟に内規を補足していくなど、「現場の声」「女性の声」にもっともっと柔軟に対応していける制度にしていかなければいけないと思います。言うことを言わないで我慢ばかりしていると何も改善されませんし、私は血の気も多い方なので（笑）ちゃんに対応してもらうまで頑張りますけどね。

《横山》

学校として変える用意がないわけではないと思うんです。でもどんな事が起こるか……。細かいことまで想定していないのも事実だと思います。より柔軟に対応していくステップに進めなければなりませんね。専門学科にも女性の先生が増えてくれれば協力し合える部分もより幅がひろがるかもかもしれませんね。

## ～女子学生・研究者の皆さんへ～

☞日本では理系（自然科学系）の女性研究者が少ないことが課題とされ、すそ野拡大が求められています。これから研究者をめざすリケジョ（理系女子）学生にメッセージをお願いします。

### 《田中》

私は留学生と文章表現法、文章を書かせる授業を担当しています。理系だからと言っても文章表現自体はとても大切な部分だと思います。実験結果を相手に分かりやすく伝えるという「表現」というスキルは理系であっても先々卒業した後まで、必ず必要になっていくことだと思いますのでしっかり身につけていって欲しいですね。

### 《齋藤》

英語を教える立場としては理系という枠に捉われず英語という言葉を通じて「一般教養」をまず学んで欲しい。リベラルアーツこそ大学の意義であり

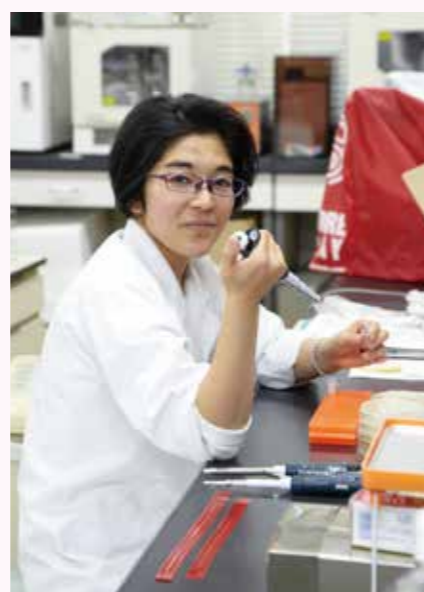
教養の上に専門分野に入っていった欲しいですね。学生時代こそ本を読んだり自分を成長させる時間を自分のために使って欲しいです。

### 《横山》

教養科目担当の立場から言えば文系、理系関係なく〇〇の専門・・・になる以前に、それらの技術がどのように社会に役に立っているか、社会を構成する要素になっているか、倫理的にどう役に立つのか・・・教養を身につけることでさまざまな角度から感性を磨いて欲しいですね。自分の生き方を考えられるものさしにもなってくると思います。

### 《高山》

今の学生を見ているとキチンとした日本語が書けない。頭の回転が早い学生たちでも自分の考えていることを文章に起こすなど、文章表現をするのが下手なので、とてももったいないと



感じてしまいます。卒業時の就職活動でもネックになってしまったり。そういう能力は専門とは違った意味で大切なんですよね。社会の風潮も、女子は理系が苦手なんていう根拠のない概念

## 継続する力を持つ。教養を身につける。良き伴侶も見つける！

がまだまだ多いですが、そういう偏見などは理系が好きという女子がその道を突き詰めることで解決していくのだと思います。高校まで成績が優れていなくてやっと大学に入れたという学生でも、大学で興味を深めるという“学び”をすることで大きく伸びる学生たちをたくさん見てきました。

そういう意味でも女性医師や研究者の活躍できる社会を作っていかなければいけないと思います。

### 《田中》

日本語の教師って専任の仕事としては難しい立場で、離職も考えたことがあるのですが、頑張っ続けてきて良かったと思っています。同様の悩みを持つ先生やこれからこちらの道をめざす学生さんには、諦めず、続けていくことでこそ道は開けるものだと伝えたいですね。きっとその際に必ずサポートしてくれる大切な仲間や理解者ができてるものです。



### 《齋藤》

産むか働くか・・・ではない社会に変えていきたいですね。ワークライフバランスという言葉すら必要ない自分らしく生きられる世の中になってくれれば良いと思います。

### 《高山》

私は実験が好きなんです。好きなことでお給料をもらってできるって素敵な仕事ですね。その立場になれるまで大変な苦労も伴いますが、やりがいはあるし、やりたいことを自分のストラテジーを立てて検証できる。もちろん予算を獲得してくるなどのハードルはありますが、その苦労を差し引いても私にとっては魅力ある仕事です。企業にはいるのではなく大学に残って研究者を続ける。この道を見つけることができたというのもラッキーな研究者の一人かもしれませんね。今の仕事、環境には満足しています。これから研究者をめざす方にも、こういう道もあるということを伝えたいですね。

### 《横山》

大学という環境で自分の好きなことを自分で見つける。自由裁量の色合いが強い職制ですので忙しい時期や大変な期間が続く場合もありますが諦めずに

やっていくしかない。もちろん研究者としてだけではなく教育者として学生に教えていく側面もあります。小・中・高校の先生方より社会に出る直前まで学生の成長を見て送り出せる素敵な仕事であることに誇りを持っています。良き伴侶を見つけるというのも人生の中で大切です。パートナーの理解というのも必ず必要な場面も出てきますので、研究者の皆さんは素敵な恋愛もちゃんとしてください。

### 《全員》

そう。大事ですね～(笑)

### 【座談会を終えて】

田中先生の生後3カ月の息子さんも、ママの抱っこで気持ちよさそうに眠りながら参加するなど、とても和やかな雰囲気の座談会となりました。

同じキャンパスにいらながらも、これまでなかなか知り合うことのなかった先生方。横山先生を中心としたネットワークによってつながり、研究の

ことからプライベートなことまでさまざまな悩みや夢を分かち合っている姿に、ネットワーキングの重要性和、女性のしなやかさを感じたひとときでした。

これからも女性研究者仲間同士支えあい、切磋琢磨しながら前に進んでいけることを願っております。



### 帝京大学 宇都宮キャンパス (理工学部、経済学部、医療技術学部)

〒320-8551

栃木県宇都宮市豊郷台1-1

TEL:028-627-7111 (代表)

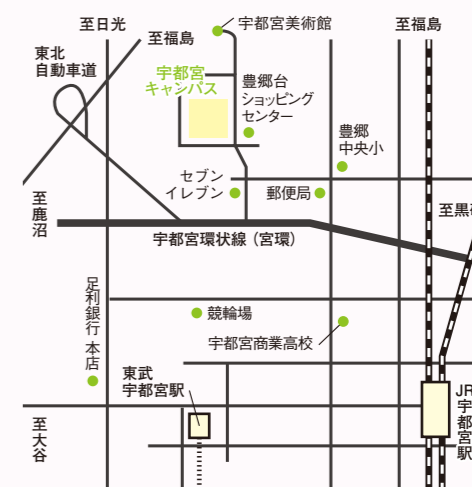
●JR東北新幹線、宇都宮線「宇都宮駅」下車、  
関東バス5番のりば:

- 豊郷台・帝京大学行、豊郷台・ニュー富士見行、宇都宮美術館行  
各20分、「帝京大学」下車
- 帝京大学(直通)行20分、終点下車
- 済生会病院・帝京大学行25分、終点下車

●東武宇都宮線「東武宇都宮駅」下車、  
関東バス/JR宇都宮駅乗り換え25分、「帝京大学」下車

●東北自動車道「宇都宮IC」より車で10分

### Utsunomiya Campus Access Map



# ロールモデル一覧

帝京大学女性医師・研究者支援センターは、男女共同参画推進委員会メンバーとともに、男女を問わず本学で働く皆さんにとって働きやすい職場環境の実現と、研究・教育の場が魅力的になることをめざして活動しています。  
支援制度を上手に利用しながらいきいきと働く皆さん、男女共同参画の実現をめざす皆さんの声を集めました。

女性が働きつづけるには、能力アップが不可欠です。こうした考えから、研究力向上のための支援に力を入れています。

ライフイベントと研究・キャリアを両立しながらステップアップしていくために、保育環境および労働環境の整備を進めています。

男女共同参画の推進には、一人ひとりの意識向上が欠かせません。女性医師・研究者支援センターでは、シンポジウムやエビデンス構築を通じて、社会に働きかけていきます。



研究支援員制度を利用して

環境整備



スローペースでも前進し続けること

P11

医療技術学部看護学科  
准教授  
新井 直子



病児・病後児保育を利用して

環境整備



研究者は自らのペースをつくれる

P15

帝京大学大学院  
公衆衛生学研究科  
講師  
井上 まり子



ジャーナル・クラブを利用して

研究者能力向上支援



スキル・知識が身につく実感

P19

帝京大学大学院  
公衆衛生学研究科  
竹之下 真一



組織の意識改革～男女共同参画推進委員として

エビデンス構築・組織の意識改革



今置かれている立場でやるべきことに全力を尽くす

P23

薬学部医薬化学講座  
臨床分析学研究室  
教授  
金子 希代子



事業所内保育室を利用して

環境整備



職場と家族のサポートでキャリアを継続

P13

帝京大学医学部附属病院  
看護部耳鼻科咽喉科外来  
看護師  
小原 千陽



さまざまなキャリアプランを支援する取り組み

環境整備



夢を実現させようという強い意志をもつ

P17

医学部外科学講座  
主任教授  
川村 雅文



メンター制度を利用して

研究者能力向上支援



学部の垣根を越えて

P21

帝京大学大学院  
薬学研究科医療薬学講座  
病態生理学研究室  
高田 裕子



組織の意識改革～エビデンスの構築

エビデンス構築・組織の意識改革



女性研究者の活躍に向けて

P25

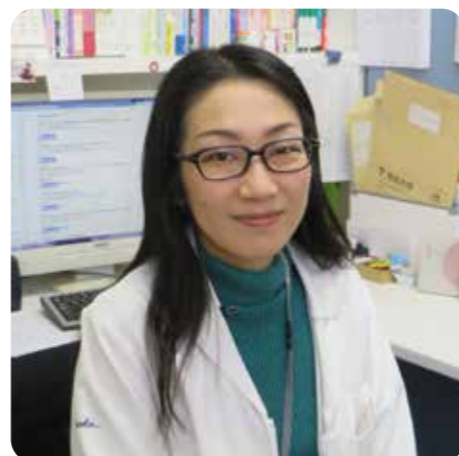
医学部衛生学公衆衛生学講座  
准教授  
野村 恭子

※掲載情報は2016年3月現在のものです

医療技術学部看護学科  
准教授  
新井 直子

～ Profile ～

愛知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻  
博士後期課程修了。  
近畿大学医学部奈良病院、滋賀医科大学等を経て、  
2010年帝京大学医療技術学部看護学科講師として入職。  
2016年より現職。



## ■ スローペースでも前進し続けること

### 研究内容について

私は主に実験的手法を用いた褥瘡のアセスメントツール開発に向けた基礎研究や、看護職への褥瘡ケア教育プログラムの開発に向けた研究を行っています。実際には、臨床で褥瘡を持つ患者さんの創傷液を採取させていただき、その中に含まれる成分の分析と褥瘡の質的な状態との関連を探索し、臨床で働く看護師が褥瘡ケアに関して困難と感ずることを調査するなどしています。また、最近では、がん患者さんへのサポートケア（特にリンパ浮腫）に関する研究にも携わるようになりました。

### 研究支援員制度を利用して

育児休業から復帰した後、周囲の女性研究者や上司よりこの支援制度についての紹介や「活用してはどうか」との助言をいただきました。また、利用経験のある研究者から、具体的な申請方法や利用した際の感想なども教えていただきました。そのため、支援制度の利用に対する興味はあったのですが、復職直後は利用準備もままならないような気がしたため、年度がかわってから利用申請をしました。支援員さんは、ハローワークの活用や周囲の研究者への相談等によって、最終的には本学の公衆衛生大学院の学生さんをお願いすることになりとても助けられています。

これまでは教育や運営に関する業務を優先してきたため、“やらなくては”、“やりたいのに”という研究活動のまとめや新たな研究の始動準備に関して、大きな支援をいただいています。定期的に支援員さんへの依頼内容を検

討する過程で、研究の遂行に必要・不足している事柄の整理もできるように感じました。本当はもっと長期間支援していただきたいくらいです。また、支援員さんが大学院の学生さんということもあり、単に作業を依頼する相手としてではなく、若手の研究者として関わるようにしてきました。そのため、私の携わっているさまざまな研究活動についても少しずつお伝えしてきました。この体験が彼女にとってのよい経験になればうれしいと思っています。

### 研究者のキャリアについて

キャリアというものは直線的に発達するものではないと考えます。特に妊娠・出産・育児を経験してからは、自分一人の力や都合だけではどうにもならない事態にも直面し、キャリアが停滞していると感じることもありました。育児休業復帰直後は、それまでの生活や研究活動にかけられる時間の減少・突発的な予定の変更などにもどかさや戸惑いがありました。しかし、現状を受け入れずに嘆いているだけでは何も変わらないと思うようになり、今ではキャリアが一時停滞することを恐れず焦らず、まずはスローペースでもよいから、前進し続けることが大切であると考えようになりました。そのためには、こういった支援の活用も継続した前進のための助けになると感じています。



📍 新井先生が利用したのは・・・

## ● 研究支援員制度

妊娠・出産・育児・介護などのライフイベントに直面し、研究時間の確保が困難となった研究者※を対象に「研究支援員」を配置し、研究の継続をサポートする制度です。支援員には多くの学部生や大学院生など「研究者の卵」が採用され、研究支援に携わりながら、支援員自身が研究経験を積む「キャリア教育」としての効果もみられました。

※配偶者が研究者である男性研究者を含む

研究支援員申請件数および配置数			
年度	申請件数	配置研究者数	支援員数
平成25年度	20件	13件	22名
平成26年度	9件	8件	11名
平成27年度	6件	6件	8名
合計	35件	27件	41名

研究支援員内訳				
大学生	大学院生	外部社会人	研究員その他	専攻学科生
14名	7名	16名	16名	1名



📍 研究を支援するこんなプログラムもあります

## ● 研究力向上セミナー

外部資金獲得のためのノウハウや、論文投稿の際のコツを知るセミナーなど、女性の能力アップを支援するセミナーを実施しています。

開催日	セミナー内容
平成26年9月29日	科学研究費補助金取得セミナー 児島将康氏(久留米大学)、松浦 正明氏、松野 彰氏(帝京大学)
平成27年1月12日	帝京大学ハーバード・プログラム スピンオフ・セッション デイヴィッド・クリスティアーニ氏、マーセロ・バガノ氏(ハーバード大学)
平成27年2月4～6日	質的研究手法講義とワークショップ ジャネット・イリング氏(ダラム大学) 他
平成27年9月11日	外部資金獲得セミナー 児島将康氏(久留米大学)、富澤康子氏(東京女子医科大学)、田中篤氏(帝京大学)
平成27年10月15日	ACADEMIC Writing デレク・スミス氏(ニューキャッスル大学)
平成27年11月18・19日	グラウンデッド・セオリー・ワークショップ ジャネット・イリング氏(ニューキャッスル大学) 他
平成27年11月18・19日	米国の最新乳がん治療 レシュマ・ジャクシー氏(ミシガン大学)



帝京大学医学部附属病院  
看護部耳鼻科咽喉科外来  
看護師  
小原 千陽

～ Profile ～  
帝京高等看護学院卒業、  
平成20年より 帝京大学医学部附属病院に  
看護師として入職、現在に至る。



## ■ 職場と家族のサポートでキャリアを継続

### わかかさ保育室を利用した経緯

私は7月に出産しましたが、復帰しやすい時期である4月からの復帰を希望していました。復帰するには、職務中娘を保育園に預けないといけないので、区の認可保育園に応募しましたが、待機児童の多い地域でもあり、なかなか入れませんでした。そんな時、わかかさ保育室から受け入れていただけるとの連絡がありました。

自宅や勤務先からも近く、娘の急な体調不良の時にも迎えに行きやすい環境であることが利用を決めた理由です。



### わかかさ保育室を利用して

当初は娘をわかかさ保育室に預けることに不安を感じていました。しかし、それは娘も同じだったと思います。そんな中、毎日保育室の先生との連絡ノートに、一日の出来事や、子どもたちの成長などが書いてあり、先生たちがあたたかく見守ってくれていることがよく伝わってきました。また娘も、毎日楽しそうに保育室に通っていますし、大変ありがたく感じます。

また季節に応じて作品を作ったり、子どもと一緒に参加できるイベントがあったりと、限られた時間で子どもと一緒に参加できて、とてもよかったと思っています。



### ワークライフバランスについて

育児休暇は1年間取得することができます。長期休暇を取ることで、自分の知識や技術が劣ることに不安を感じたために、約半年という早期での復帰をしました。以前は病棟勤務であったために、復帰後も病棟を考えていましたが、育児のこともあり、外来での勤務となりました。外来は病棟とはまた違った難しさもあり、日々勉強の毎日ですが、職場の上司やスタッフ、そして家族の温かいサポートもあって、仕事と家庭とのメリハリをつけながら、毎日楽しく仕事をすることができています。

夫も病棟勤務で、当直や他病院での勤務など忙しい毎日ですが、一緒に家事や育児などを手伝ってくれたり、話を聞いてくれたりするので本当に助かっています。

これも私が毎日楽しく仕事ができている秘訣なのだと思います。

👉 小原さんが利用したのは・・・



## ● 事業所内保育所の設置 ～帝京大学わかかさ保育室～

帝京大学医学部附属病院がある板橋キャンパス、帝京大学医学部附属溝口病院、帝京大学ちば総合医療センターに事業所内保育室を完備。女性教職員の仕事と子育ての両立を支援しています。



- 07:30 ●順次登室 ●視診 ●あそび ●(ミルク)  
09:30 ●あそび ●おやつ ●(睡眠)  
11:30 ●食事(離乳食) ●(睡眠)  
13:00 ●お昼寝(睡眠)  
15:30 ●おやつ(ミルク) ●(検温) ●あそび  
16:00 ●夕方のあそび ●(ミルク)  
18:00 ●降室 ●延長保育



- 4月 お花見散歩  
5月 おやつ遠足  
6月 保育者懇談会  
7月 七夕  
8月 水あそび・夏まつり  
9月 お月見  
10月 ハロウィン  
11月 個人面談  
12月 クリスマス会  
1月 お正月あそび  
2月 節分  
3月 ひなまつり・作品展

※板橋キャンパス内「わかかさ保育室」は2016年4月より、地域型保育施設「事業所内保育所 帝京わかかさ保育園」として、職員のお子さまと特に待機児童の多い0～2歳の区在住のお子さまと一緒に保育する施設となります。本学と板橋区はさまざまな分野における連携協力に取り組む「地域連携に関する基本協定」を2012年に締結しており、同保育園はその一環として企画され、高まる区内の保育需要に対応していくことが期待されています。



帝京大学大学院  
公衆衛生学研究科  
講師  
井上 まり子

～ Profile ～

ミシガン大学公衆衛生大学院修士課程修了後、  
フィリピン保健省-JICA政策アドバイザー事務所勤務。  
東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。  
2008年より帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座助教として入職。  
2013年より現職。



## ■ 研究者は「自分でペースをつくれる」仕事

### 病児・病後児保育を利用して

子どもは「なぜこんなときに・・・」と思う大事なときほど発熱したりするものです。病気はほとんどしたことがない我が子でしたが、急な発熱には本当に困りました。本人はいたって元気だったのですが、保育園や幼稚園には登園できません。そんなとき、病児・病後児保育を利用しました。保育室はきれいで清潔なのはもちろんですが、かわいらしく、そしてひとりひとり隔離されている配慮もあり、設備がとても充実していました。病児・病後児保育は本当に病気のときにしかかかることができませんから、ご担当の保育士の先生とは一期一会になってしまうことが多いかと思われます。それでも、先生方がとても大事にかわいがってくださり、本人は楽しく過ごすことができたようです。板橋区の病児・病後児保育は3か所しかないので、それがこんなに身近にあり、本当に恵まれていると思いました。

### ご自身の研究内容について

公衆衛生は人々の集団を対象にいかにか健康を守るかを研究し、実際に活動していく分野です。私はその中でも、社会的・経済的な要因が人々の健康にどのような影響を及ぼすかについて研究する「社会疫学」という分野を専門にしており、特に非正規雇用労働者の健康に着目して研究を行っております。

### 研究者のキャリアについて

研究者は継続して研究成果をあげることで、教育者として

授業や研究指導に携わることが求められています。また、年間を通じて事務的な作業や学内外の会議も多々あります。社会とのつながりが深い公衆衛生という私の専門分野では、社会のフィールドに出ていくことも必要です。そうした中では日々途切れることがない仕事が求められます。出産や育児はこうした継続的な仕事を阻む心配があります。特に育児世代は20代～40代くらいと、ちょうど人生の中でも研究者として一番力をつけるべき大事な時期でもあり、仕事と育児の両立に困難を抱えることも多いことと思われます。同居の両親などを頼ることができる家庭もありますが、夫婦共々実家が遠い地方出身者であったり、両親も働いていたりする家庭ではそれも難しいものです。

研究者の職務内容は多岐にわたるため大変な面もあります。しかし、女性にとって研究者は魅力的な職業でもあります。自らの意志で作業を配分したり、ペースをつくらったりできる利点があり、人生を通じて継続したワークライフバランスの実現に向いている仕事だとも思っています。

多くの方が私と同じように大変な時代を乗り越え、次の世代の子を育てる機会に恵まれることを期待してやみません。そして研究者ならではの醍醐味として、教育や研究を通じて社会づくりや人づくりに貢献し、将来のよりよい社会の実現に微力ながら力を発揮していきたいと思っています。



井上先生が利用したのは・・・

## ● 病児・病後児保育

地域貢献の一環として、帝京大学医学部附属病院では、病気により保育園や幼稚園などに通園できないお子さんをお預かりする「病児・病後児保育室」を併設。プレイルームのほか複数の隔離室を完備し、感染症のお子さんをお預かりすることも可能です。また、保育園や幼稚園などで発熱し、保護者がお迎えに行けない場合、看護師が代わりにお迎えに行き、「病児・病後児保育室」でお預かりするサービスも導入しています。

板橋区の委託施設のため、区内に在住する満一歳から小学校入学前のお子さんが利用対象となっています。



### 【利用案内】

- 定員 6名
- 配置 看護師1名+保育士3名
- 開室時間 月～金 8:00～18:00
- 利用期間 1回の利用につき7日を限度
- 利用料金 1日 1,500円(食事・おやつ代別途)



こんな制度もあります

## ● 保育支援

夜間保育や休日保育をはじめ、子どもの急な病気や怪我による病児・病後児保育、介護により困難となった乳幼児保育、学童保育などを利用した教員および研究者に対し、利用料金の一部を補助金にて支給する制度です。教育・研究活動と家庭の両立をサポートしています。



### 保育支援対象

対象者	帝京大学に在職する教員(研究者)(男性研究者も含む)で、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育を利用した者 ※通常の時間帯(平日7:30～18:00)の保育は対象外。 ただし、病後児保育は利用時間帯の制限はありません。
-----	---

### 3年間の利用実績

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
件数	12件	9件	21件



環境整備



環境整備



## 医学部外科学講座 主任教授 川村 雅文

～ Profile ～

慶應義塾大学医学部医学科修了。  
慶應義塾大学医学部外科学准教授を経て、  
2010年帝京大学（呼吸器外科）病院教授として入職。  
帝京大学医学部外科学講座教授を経て2015年より現職。  
帝京大学医学部附属病院副院長・帝京がんセンター長。



## 夢を実現させようという強い意志をもつ

呼吸器外科でのオーダーメイド  
カリキュラムを導入したきっかけ

帝京大学の卒業生で呼吸器外科を希望する方々の将来計画が多種多様であり、通常の医局の専門医を養成する画一的な教育プログラムでは対応しきれないと判断したことから、オーダーメイドカリキュラムを導入しました。導入してから、5年間で5名の女性医師が入局され、入局後に結婚、出産、育児を経験された方々がいらっしゃいます。それらと同時進行の形で専門医取得、博士号取得をされた方たちもいます。外科専門医については対象学年に達した方が3名おられますが、全員が順調に専門医を取得されました。また必要な資格を取得し既にご実家の病院に戻られて育児の傍ら臨床に励んでいる方もいます。

総じて女性医師はご自身の人生の目標が明確で、その実現に向けて確実に課題をこなしていく「着実さ」という点で男性医師よりも優れている印象がありますね。

プロフェッショナルとしての道を究めることをめざす女性医師が、どんどん出てきて欲しいと思っています。

研究者のキャリアについて

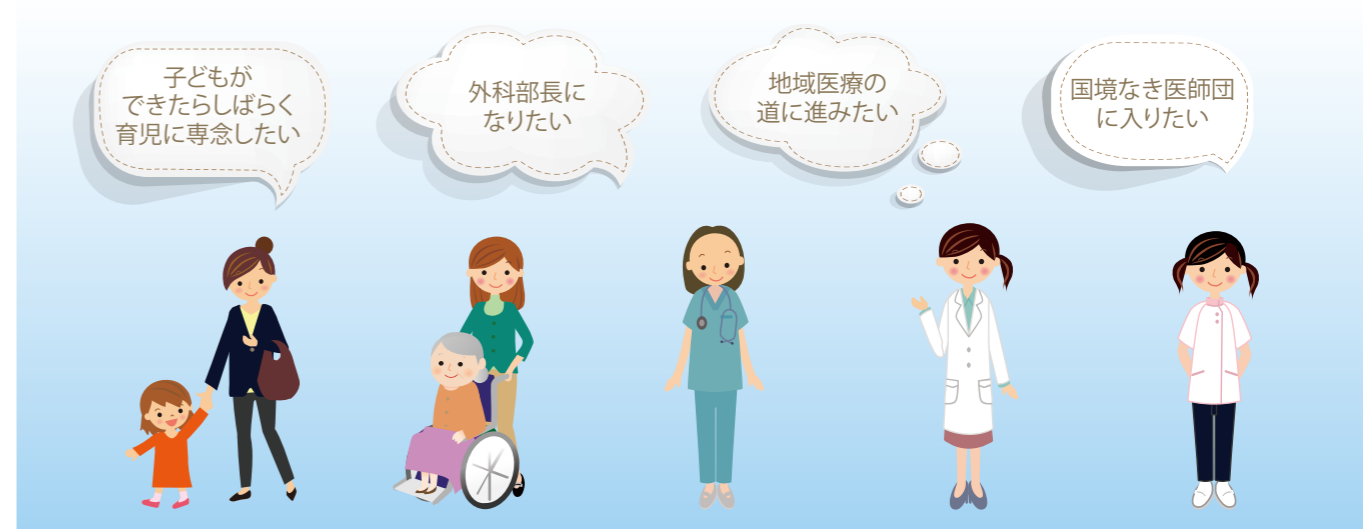
呼吸器外科の場合、研究職に就くということは臨床研究能力を十分身に付け国内外に向けて情報を発信し続けられる呼吸器外科専門医になることを意味します。このためにはHigh volume centerにおける専門医としての技術の習得にとどまらず、語学力、統計学を含んだ基礎学力、実験経験に裏付けられた研究の企画力、遂行能力などが求められます。これらを固定化されたプログラムによって身に付けさせることは臨床医学ではなかなか困難です。High volume centerへの出向や国内外への留学などを通じてある一定期間臨床を離れて研究に専念することなどが求められます。

こういったことを実現させるためには男女を問わず、自分の努力や教室の援助だけではなかなか難しく、ご家族の協力なども必要です。その時もっとも重要なのが夢を実現させようという強い意思ではないでしょうか。



## ● 特色ある取り組みで働きやすさを支援

帝京大学では各学部・講座が、それぞれの組織に合わせた特色ある取り組みを行っています。ここでは、その一つである呼吸器外科の「オーダーメイド・カリキュラム」をご紹介します。



### 「オーダーメイド・カリキュラム」

個々の事情や希望にあわせて、適宜修正を行いながらキャリアアップをめざせる制度です。呼吸器外科講座では、専門医資格取得をめざす女性医師などが、ライフイベントなどと両立しながら、自身の望むキャリアパスに向かってステップアップしていけるよう支援しています。

👉 こんなプログラムもあります

## ● キャリアアップ講演会

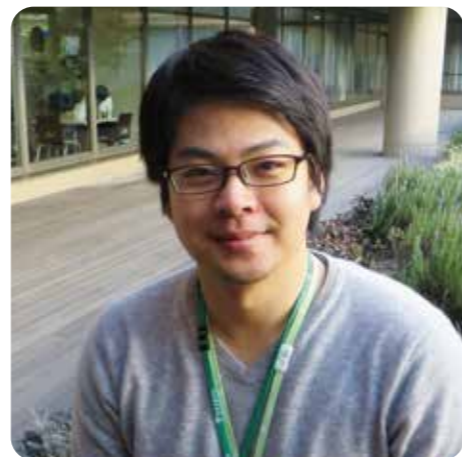
国内外から魅力的なロールモデルをお招きし、ご自身のキャリアパスについてや、各分野の最新の知見を教えていただく講演会を実施しています。参加対象を限定せず、誰でも参加可能とすることで、女性研究者研究活動支援事業への意識向上、理解促進を図っています。

開催日	セミナー内容
平成26年3月24日	女性研究者のためのキャリアアップ講演会 ヤン・スタッセン氏、浅山敬氏、原梓氏(ルーベン大学高血圧研究所)
平成27年3月9日	女性リーダー育成のスキルアップセミナー「Go Global!」 村木美紀子氏
平成27年4月6日	女性研究者のキャリア・パス キャサリン・ベイッカー氏(ハーバード大学)
平成27年6月30日	キャリアアップ・ロールモデルセミナー 高野朋子氏(マギル大学ヘルスセンター)
平成27年11月18・19日	キャリアアップ・ロールモデルセミナー「米国における男女年収格差」 レシュマ・ジャクシー氏(ミシガン大学)
平成28年1月12日	キャリアアップ・ロールモデルセミナー「米国で臨床医として働く」 安川康介氏(ブラウン大学付属ロードアイランドホスピタル)
平成28年3月8日	キャリアアップ・ロールモデルセミナー 柳田素子氏(京都大学大学院)
平成28年3月24日	キャリアアップ・ロールモデルセミナー 坂元晴香氏(聖ルカライフサイエンス研究所)



帝京大学大学院  
公衆衛生学研究科  
竹之下 真一

～ Profile ～  
東京医科歯科大学医学部医学科卒業。修士（医学）。  
同大学初期研修終了後、2015年 帝京大学大学院  
公衆衛生学研究科専門職学位課程（SPH）入学。



## ■ スキル・知識が身につく実感

### ご自身の研究について

臨床疫学研究をより普及させたいと考え、研究マインドを持つ臨床医がどのような特性を持つのか明らかにする研究を計画しています。研究を行う上で、特に経験が豊富な指導者・相談役である「研究メンター」の存在に注目し、研究メンターの存在の有無が、過去1年間の研究実績に関係していると研究仮説を立て30-40代の臨床医332名を対象に横断研究を行いました。統計解析の結果、この研究メンターの存在がある人は、いない人より7倍近く英語査読論文を書いていたことが判明しました。今後はこの結果を踏まえてさらに研究メンターの特性について踏み込んだ研究を行っていきたく考えています。

### ジャーナルクラブを利用して

最近では以前までの経験に基づいた医療だけではなく、エビデンスに基づいた医療の重要性が叫ばれ始めています。日々更新される論文の結果を臨床に応用するために、論文の批判的吟味を確実に行うスキルが臨床医には必要不可欠となっています。論文の輪読会は学生時代からクリニカル・クラークシップ中に各診療科で行われていましたが、私自身はあまり重要視せずに、場当たりの読み方を留まっていたように思います。また、私の大学時代は、疫学の専門知識を持った先生に長期間、継続して論文の読み方を教わる機会がなかったので、ジャーナルクラブが大変有意義に感じられますし、実際にジャーナルクラブに出席するたびにスキル・知識が身につく実感

が得られました。今後もジャーナルへの参加を継続していきたいと思っています。

### 今後のビジョンについて

私は現在、帝京大学公衆衛生大学院に在学しています。公衆衛生大学院では、特に、疫学と生物統計学を中心に臨床疫学研究に必要なスキルの習得に努めています。また、大学院では、課題研究が必須単位として課されており、学生は授業履修のコースワーク以外に自身の研究を行っています。今後は、疫学および生物統計学の勉強を継続し、現在行っている研究をより深めていきたいと思います。何より研究活動の範囲を論文執筆にとどまるのではなく、その研究を通じて得られた知見を現場に還元していく活動に力を入れていきたいと思います。また、卒業後に大学院に入学するというメジャーではないキャリア選択をしたために、今後、キャリアの一選択肢となれるように臨床と研究の両立をめざして頑張りたいと思っています。



ジャーナルクラブのようす

📖 竹之下さんが利用したのは・・・

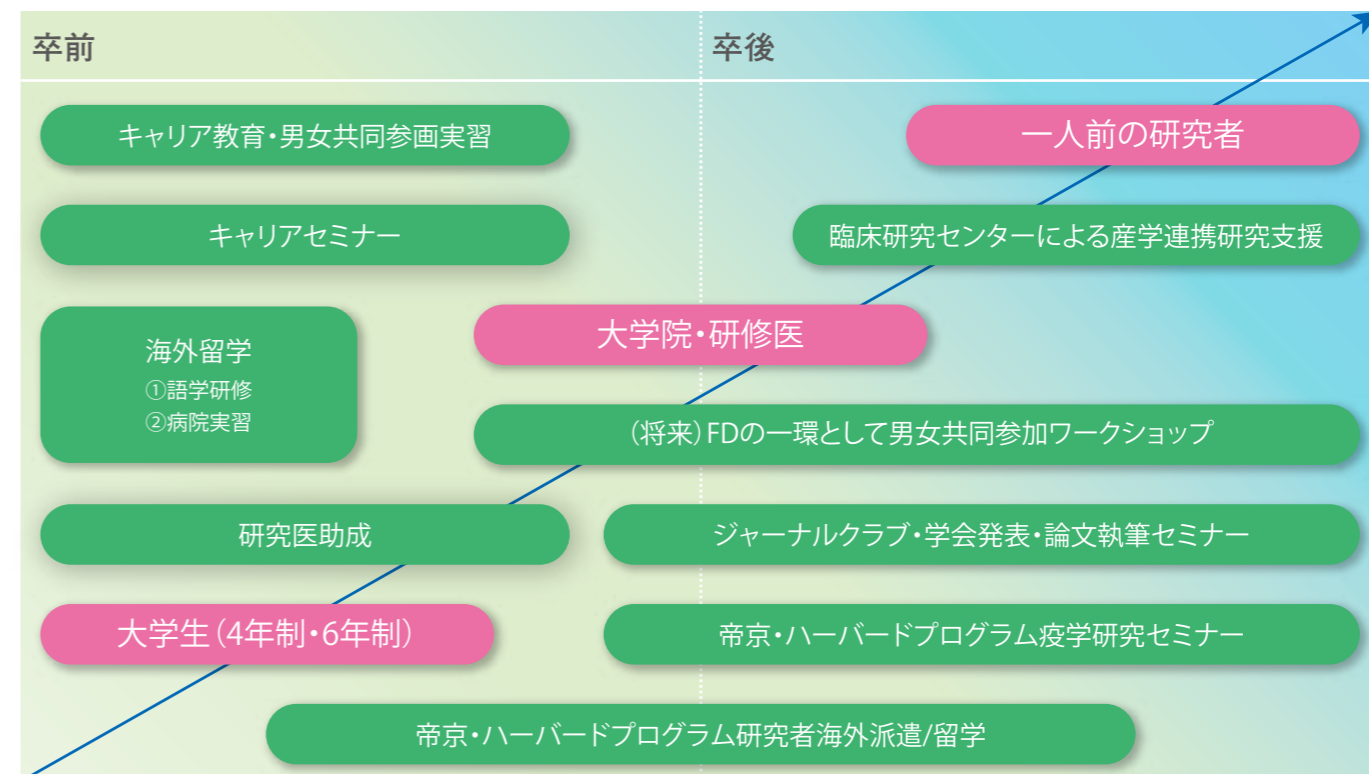
## ● ジャーナルクラブ

研究者を招いて、自身の論文掲載についての話を聞いたり、海外の一流雑誌に掲載された最新の研究を読み解くことで、最先端の知識を学び、効率的な読み方を身につけるジャーナルクラブを定期的に開催しています。興味をもつ人が誰でも参加できるこの場は、学部生・大学院生・ポスドク・若手研究者など多様な参加者で構成され、ネットワーキングだけでなく、身近なロールモデルを得ることのできるキャリア教育の場にもなっています。

年度	回数	タイトル	参加人数
平成25年	全11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Night work and risk of ovarian cancer</li> <li>• Outcomes of Medical Emergencies on Commercial Airline Flights</li> <li>• 簡易批判的吟味の方法</li> <li>• Actual Causes of Death in the United States, 2000</li> </ul>	106名
平成26年	全15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 二重投稿と原著論文の定義について</li> <li>• World Economic Forum Gender gap index (2013)</li> <li>• システマティックレビュー（方法論）とメタアナリシス（統計学的手法を加える）の批判的吟味 他</li> </ul>	101名
平成27年	全15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マスクの感染予防効果についてのレビュー論文</li> <li>• ピーナッツ・アレルギーのリスクを有する小児のピーナッツ摂取の無作為試験について</li> <li>• 日本人のコーヒー摂取と死亡率の関連（米国臨床栄養学雑誌）について</li> <li>• 胆道閉鎖症（BAE）へのstool color cardの有用性について 他</li> </ul>	198名

## ● 卒前・卒後の一貫した若手の人材育成基盤

学部生・大学院生・ポスドク・若手研究者が、研究者として自立することを最終目的とした卒前・卒後のシームレスな研究者教育基盤の整備を行っています。



帝京大学大学院  
薬学研究科医療薬学講座  
病態生理学研究室  
高田 裕子

～ Profile ～  
2006年 帝京大学薬学部入学。  
2012年 帝京大学大学院薬学研究科薬学専攻入学。



## 学部の垣根を越えて

### ご自身の研究内容について

「薬剤師が地域で妊娠や出産をサポートする体制の実現をめざす研究」というテーマで研究を行っています。

晩産化などに伴い、日本の女性の妊娠、出産を取り巻く環境は大きく変化しています。そこで、薬剤師を中心にすえて、地域で女性の妊娠や出産をサポートする連携体制を考えました。この研究プロジェクトを実現させるために、薬局薬剤師や地域の方々を対象にアンケート調査を行い、薬剤師の関わり方などを明らかにし、薬剤師会や自治体と連携をめざしたさまざまなトライアルを実施しました。

さらに、大学が研究機関としての役割を地域で果たすために、電子カルテを用いた患者情報の解析や臍帯由来の内皮細胞の解析から科学的エビデンスを構築し、妊婦の健康管理の重要性を伝える取り組みも行っています。この連携体制が実現すれば、地域での少子化対策の推進にも繋がると考えています。

### メンター制度を利用して感じたこと

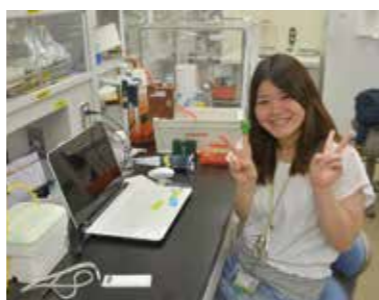
帝京大学女性医師・研究者支援センター室長の野村恭子先生に統計解析の手法や、論文執筆などをマンツーマンで指導していただいています。分析の種類や論文の読み方などの基礎から、解析ソフトの使い方まで幅広い内容を教えていただけており、自分の研究を進めるために必要不可欠です。加えて、学部の垣根を越えた貴重なご意見をいただけることに大変魅力を感じています。

2015年9月に行われた第4回日本くすりと糖尿病学会

学術集會にて優秀演題賞を受賞できたのも、メンター制度によるご指導の賜物だと感じています。さらに、女性医師・研究者支援センターや公衆衛生大学院の方々との交流を持つことができ、身近なロールモデルを得ることで、自分の将来について考える良い機会になっています。

### 今後のビジョンについて

今後は、大学院で身につけた知識や能力を臨床現場で活かしながら、将来的に薬剤師の立場から研究活動をしたいと考えています。近年、患者さんを支えるさまざまな医療チームに薬剤師が薬物治療のサポートをするために参加しています。他職種の方々との連携を必要とする中で、私が大学院の研究を通して得たデータを収集し、解析する能力は、チームが力を発揮し、患者さんを支えるために必須となるはず。また、臨床現場で働く医療従事者の方々が持つ薬物使用に関する疑問や感覚に対して、エビデンスを構築するという研究業務にも薬剤師が携われるのではと考えています。そのため、薬剤師が薬局や病院などの働く場所に限らず、現状よりも研究業務に積極的に関わられるような環境を作り出し、薬学の発展に貢献していきたいと思っています。



高田さんが利用したのは・・・

## ● メンター制度

豊富な知識と職務経験を有した先輩の研究者（メンター）が、若手研究者（メンティ）の研究指導やキャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートする役割を果たします。センターでは、研究者のニーズに応じたメンターのマッチングを行っています。また、海外留学や海外研究者との共同研究を希望する人のために、国際共同研究の機会や、研究メンターの紹介なども行っています。

メンタリングの流れ  
メンター制度ポスター

こんなプログラムもあります

## ● 男女共同参画について考えるキャリア教育

女性が活躍できる社会構築のためのすそ野拡大の一環として、男女共同参画について考えるキャリア教育を実施。高いマインドをもった学生の育成に力を入れています。

### 医学部キャリア教育

- 医学部衛生学公衆衛生講座との共同教育
- 医学部1年生(H18～)医学序論90分1コマ
- 医学部5年生(H18～)公衆衛生学実習2週間

### 医療系3学部対象「キャリアデザイン講座」

平成27年度より、医学部・薬学部・医療技術学部の学生を対象に、医療界の男女共同参画の現状およびワークライフバランスについて考える授業を開始しました。学生のキャリアプランを明確にし、男女共同参画への意識を高めることをねらいとしています。

テーマ：「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」医療の分野で女性がいきいきと働くために(全8回)

医療系3学部共通キャリアデザイン講座内容	講師
我が国の女性の就労の現状と国の男女共同参画施策	法学部 村上文氏
医療界における男女の就労機会格差、労働問題	医学部衛生学公衆衛生学講座 野村恭子氏
結婚と出産とタイミング	医学部衛生学公衆衛生学講座 野村恭子氏
キャリアデザイン	医学部衛生学公衆衛生学講座 野村恭子氏
女性研究者のワークライフバランスを考える	薬学部 楯直子氏、金子希代子氏
女性の就労とジェンダーに関する法律全般について	医療共通教育センター 大滝恭弘氏
帝京大学における男女共同参画社会の構築の取り組み	医学部衛生学公衆衛生学講座 野村恭子氏
講義のまとめ	医学部衛生学公衆衛生学講座 野村恭子氏

## 薬学部 医薬化学講座 臨床分析学研究室 教授 金子 希代子

### ～ Profile ～

東京大学 薬学博士取得。  
1980年 帝京大学医学部 第二内科学教室 助手として入職。  
医学部 第二生化学教室、中央機器室、薬学部 物理化学講座  
薬品分析学教室 講師、同 助教授、同教授を経て2012年より  
薬学部 医薬化学講座 臨床分析学研究室 現職。



## ■ 今置かれている立場でやるべきことに全力を尽くす

### ご自身の研究内容について

プリン代謝や痛風・高尿酸血症を研究テーマとしています。尿酸値が高いと痛風になることが知られています。尿酸は体内でプリン体から作られるので、食べ過ぎ、飲み過ぎ、すなわちプリン体の取り過ぎは血中の尿酸値を上げる原因の1つになります。研究室では、卒業研究として食品中のプリン体含量を測定しています。その値は、高尿酸血症・痛風 治療ガイドラインに採用され、全国の臨床現場で使われています。プリン体の吸収や細胞内外での働き、動物モデルを用いた実験にも取り組んでいます。また、尿路結石の生成機序を調べる研究も行っています。

### 男女共同参画推進委員として

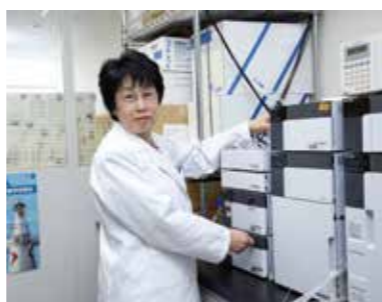
男女共同参画推進委員会が発足した初年度、薬学部では出産を控えた教員が3名、研究支援員を配置できる教員が1名いました。その先生方に連絡を取り、1名の教員は研究支援員制度を受けられました。他の出産を控えた教員とその研究室への支援は受ける事ができませんでしたが、産休や育休中に連絡を取り、職場に戻られた先生方を見守っています。また2014年8月に本学で開催した第27回バイオメディカル分析科学シンポジウムで『男女共同参画シンポジウム“女性研究者の活動について”』をオーガナイズし、女性研究者4名、男性研究者2名にご講演いただくなど、学内の男女共同参画および女性研究者支援に向けた意識改革に取り組んでいます。

発足からの3年間、講演会や勉強会、他大学との連携

等、多方面にわたって活動してきましたが、まだまだ潜在的に支援のニーズを拾いきれないのが現状だと感じます。新たにスタートした女性職員のためのカフェタイムなどを利用して、積極的にコミュニケーションを取りながら、女性支援の輪をさらに広げていけるよう協力できたらと考えています。

### 研究者のキャリアについて

自分の今までの経験でも感じる事ですが、『継続は力なり』だと思います。出産・育児・子育ての頃、1日1日が大変でしたが、その中でできる限りの仕事・研究・家庭の事を続けて来て、いつのまにか時間が経って、今に至っているという感じです。以前学内で実施した男女共同参画シンポジウムの中にあつた『折り合いをつけながら』という言葉が、とても印象に残っています。『自分が今置かれている立場でやるべきことに全力を尽くす』という気持ちで何事にも取り組んでいけば、きっとうまくいくのではないかと思います。



## 男女共同参画推進委員会とは？

## ● 男女共同参画推進委員会

帝京大学における女性研究者研究活動支援事業および男女共同参画の推進を行う「女性医師・研究者支援センター」の運営組織です。各学部の教員・職員から構成され、女性研究者支援制度の充実に尽力しています。

平成28年3月現在

### 男女共同参画推進委員会 委員名簿 (五十音順、敬称略)

沖永 寛子	常務理事・副学長(センター長)	平成25-27	佐野 圭二	医学部外科学講座 教授	平成27
野村 恭子	医学部衛生学公衆衛生学講座 准教授(室長)	平成25-27	柴田 真弥	本部総務課 課員	平成26-27
麻生 保子	医療技術学部看護学科 准教授	平成27	高山 優子	理工学部バイオサイエンス学科 講師	平成25-27
秋山 暢	医学部内科学講座 准教授	平成25-26	竹内 武昭	公衆衛生学研究所 講師	平成25-26
有賀 悦子	医学部緩和医療学講座 教授	平成26-27	樫 直子	薬学部医薬化学講座基礎科学研究室 教授	平成26-27
五十嵐 香名子	医学部附属病院総務課 課員	平成25-26	田村 元男	本部人事課 課長	平成25-27
磯尾 紀子	医学部生理学講座 助教	平成26-27	土谷 明子	医学部附属病院看護部 看護部長	平成25-27
稲垣 宏治	医学部附属病院総務課 課長	平成25-27	鶴ヶ野 しのぶ	医療技術学部スポーツ医療学 教授	平成25
井上 真智子	医療共通教育研究センター 講師	平成25	筒井 秀代	臨床研究センター センター長	平成25-26
加藤 有紀	国際教育研究所 助手	平成25	寺本 民生	本部総務課 課長	平成25-27
金子 希代子	薬学部医薬化学講座臨床分析学研究室 教授	平成25-27	橋本 敏克	医療技術学部救急救命士コース 准教授	平成26-27
川杉 和夫	医学部医学教育センター・医学部内科学講座 教授	平成25-26	藤崎 竜一	本部 事務長	平成25-27
岸 恵美子	医療技術学部看護学科 教授	平成25-26	船坂 則夫	医療技術学部看護学科 教授	平成27
酒井 正子	経済学部観光経営学 教授	平成26	南川 雅子	法学部法律学 教授	平成27
笹島 ゆう子	医学部附属病院病理部 教授	平成27	村上 文	医学部衛生学公衆衛生学講座 助教	平成25-26
笹森 幸文	医学部産婦人科学講座 病院准教授	平成25-26	村上 慶子	福岡キャンパス会計課 課長	平成27
			山城 康史		

## ● 男女共同参画シンポジウムの開催

男女共同参画をテーマとしたシンポジウムを通じ、学内における男女共同参画の推進および女性研究者研究活動支援事業への意識向上を図っています。

開催日	シンポジウム内容
平成25年2月8日	帝京大学女性医師・研究者支援センター開設記念講演会 昭和女子大学 坂東真理子氏、科学技術振興機構 山村康子氏、宇宙航空研究開発機構 塩満典子氏、 帝京大学女性医師・研究者支援センター 野村恭子氏、帝京大学臨床研究センター 寺本民生氏
平成25年10月16日	帝京大学男女共同参画シンポジウム ダラム大学 ジャネット・イリング氏、シル・モロー氏、ポール・クラブトン氏、秋田大学 蓮沼直子氏、 東京女子医科大学 野原理子氏、聖路加国際病院臨床研究センター 坂元晴香氏、 国立保健医療科学院 吉田穂波氏、東京慈恵会医科大学 川瀬和美氏
平成26年8月21日	バイオメディカル分析科学シンポジウム 男女共同参画シンポジウム 慶應義塾大学 金澤秀子氏、名古屋市立大学 平嶋尚英氏、東京大学 秋元文氏、 帝京大学 野村恭子氏、細山田真氏、樫直子氏
平成26年8月30日	帝京大学男女共同参画シンポジウム 東京医科大学 大久保ゆかり氏、宇都宮大学 長香織氏、 帝京大学 野村恭子氏、竹内真純氏



キックオフシンポジウム



男女共同参画シンポジウム



## 医学部衛生学公衆衛生学講座 准教授 野村 恭子

～ Profile ～

帝京大学大学院医学研究科社会医学博士課程修了。  
ハーバード大学公衆衛生大学院卒業。  
2003年帝京大学衛生学公衆衛生学教室助手、講師を経て、  
2013年より現職。  
帝京大学女性医師・研究者支援センター室長。  
日本内科学会認定専門医、日本心身医学会認定心療内科専門医。



## 女性研究者の活躍に向けて

### 研究者を志したきっかけ

私はもともと、何でも困ったときにまず相談できて、患者さんとその家族全体を支えるような医者になりたいと考え、卒業後10年くらいまでは臨床をしていました。初期目標が専門医を取得することで、総合内科と心療内科の専門医を取得した次に何をしようかと悩みました。そんなときに当時の恩師に「小医は病を癒し、中医は人を癒し、大医は国を癒す」という言葉を教えていただきました。この言葉には、小医は身体を治し、中医は精神を治し、大医は国を立て直すといった意味があり、医師の専門分野に優劣などないけれど“国を立て直す”ことは国民全体の健康管理を行うことから、私が臨床において一生に支えられる患者さんは1000人くらいだろうけれども、研究を行うことで何万、何億の人たちの健康に資する活動ができると考え研究者になろうと決意しました。

### ご自身の研究内容について

総合診療医は地域のお医者さんですから、そこから医師不足や医療崩壊などの社会ニュースには心を痛めました。一方で医師を取り巻く過酷な労働状況は女性医師が長く第一線で働けないことも自分自身の臨床経験より分かっており、国民の健康を守るためにはまず医師の労働環境整備、さらには女性医師のキャリア構築に関心を強めるようになりました。女性医師は医師不足の切り札として社会活用が期待されていますが、医師の現在の働き方ではキャリアと自身の文化的生活が両立できません。こうした現状を改善させるためには数字を用い、疫学という因果関係を解明する学術的な方法を用い、国際学術誌に論文を発表し、海外から注目される形で日本の現状を変えようと研究をしています。

### 女性医師・研究者支援センター室長として

帝京大学における男女共同参画活動は女性医師からスタートしていますが、今では全学部展開し、たくさんの仲間ができました。それまでは働くことに関して不平不満が多かったかもしれません。しかし、自分で取り組みをやってみてはじめて、帝京大学には志を高くもった研究者たちや、支えてくださる事務職員の方々の存在に気づかされました。私は帝京大学医学部の卒業生ですが、これほどに人に恵まれた職場はないのではないかと感じており、この大学を誇りに思っています。最初は患者さんに喜んでもらえる医療をと考えていましたが、今では職員に喜んでもらえる支援に代わっていることに幸せを感じています。心療内科や総合内科の知識が実は女性支援に適用できることはあまり知られていません。そういう意味でもやりがいのある職場です。

### 女性研究者へのメッセージ

私は研究が大好きです。帝京大学女性医師・研究者支援センターは、女性のためだけでなく、若手研究者の能力向上に力を入れています。その対象は学生をも含み、このセンターには研究に関心のある若い人たちが集い、そこで共に学び、アイデアを交換し、互いに切磋琢磨できるような環境をも提供したいと考えています。そのためにこれからも多数のイベントを企画し、皆さんが出入りしやすいネットワークを作っていきます。いつでも部屋をのぞきにいらしてください。たわいない会話から共同研究に発展するハプニングを楽しみにしてみなさんをお待ちしています。

野村先生が行っているのは・・・

## ● アンケート調査・エビデンス構築

女性医師・研究者支援センターでは、学内ニーズ把握のためのワークライフバランス、ハラスメントに関するアンケートやインタビュー調査を実施し、女性支援施策に反映しています。また、女性研究者に関する論文・学会発表や尺度開発など、女性研究者の活躍に資する取り組みを行っています。

### ■ 女性医師・研究者支援センターによるニーズ調査の一覧

平成26年 1月	保育ニーズ・ワークライフバランス・ハラスメントに関するアンケート調査
平成27年 1月	育児・介護・研究支援と男女の役割意識に関するアンケート調査
平成27年 1～3月	全キャンパス女性研究者を対象としたインタビュー調査
平成28年 1月	職場満足度に関するアンケート調査

### ■ 論文・学術発表 ■=論文、□=学会発表

#### ①医療界の男女格差、女性医師のキャリアについての研究

- 医師における性別役割分担—診療時間と家事労働時間の男女比較. 安川康介,野村恭子. 医学教育学会誌. 2012;43(4):315-319
- Nomura K. Salary differences by gender. Journal of American Medical Association. 308(12):1207-1208, 2012. doi:10.1001/2012.jama.111174.
- Nomura K, Gohchi K. The impact of gender-based obstacle on working status among women physicians in Japan. Social Science & Medicine 75 (9):1612-1616, 2012.
- Izumi M, Nomura K, Higaki Y, Akaishi Y, Seki M, Kobayashi S, Komoda T, Otaki J. Gender role stereotype and poor working condition pose obstacles for female doctors to stay in full-time employment: alumnae survey from two private medical schools in Japan. Tohoku J Exp Med. 2013;229(3):233-7.
- 安川康介,野村恭子.日本の医学界におけるジェンダー平等について. 医学教育. 2014;45(4): 275-283.
- Okoshi K, Nomura K, Fukami K, Tomizawa Y, Kobayashi K, Kinoshita K, Sakai Y. Gender inequality in career advancement for females in Japanese academic surgery. Tohoku J. Exp. Med. 2014;234(3):221-7.
- 竹内真純,筒井秀代,石黒彩,茶谷有紀,野村恭子,沖永寛子,長谷川和子,藤原アネ優子. 質的研究による女性放射線腫瘍科医の自己実現プロセスと促進要因・抑制要因の解明. 社会医学研究2015;32(2), 117-124.
- Nomura K, Yamazaki Y, Gruppen LD, Horie S, Takeuchi M, Illing J. The difficulty of professional continuation among female doctors in Japan: A qualitative study of alumnae of 13 medical schools in Japan. BMJ Open 2015 Mar 27;5(3)
- 竹内真純,筒井秀代,石黒彩,茶谷有紀,野村恭子,藤原アネ優子. 質的研究による女性放射線腫瘍科医の自己実現に向けた促進要因と抑制要因の解明. 第55回日本社会医学学会総会2014;7月. (名古屋)
- Nomura K, Yamazaki Y, Gruppen LD, Horie S, Takeuchi M, Illing J. The difficulty of professional continuation among female doctors in Japan: a qualitative study of alumnae of 13 medical schools in Japan. Mixed Method International Research Association Asia Regional Conference 2015,9 (Osaka)

#### ②女性の健康に関する研究

- Takeuchi M, Rahman M, Ishiguro A, Nomura K. Long working hours and pregnancy complications: women physicians survey in Japan. BMC Pregnancy Childbirth. 2014 Jul 23;14:245.
- Kitano N, Nomura K, Murakami K, Ohkubo T, Ueno M, Kido M, Sugimoto M. Combined Effects of Maternal Age and Parity on Successful Initiation of Exclusive Breastfeeding. Preventive Medicine Report. 2016 in press
- Tsutsui H, Nomura K, Ohkubo T, Ozaki N, Kusunoki M, Ishiguro T, Oshida Y. Identification of physical and psychosocial problems associated with diabetic nephropathy using the International Classification of Functioning, Disability and Health Core Set for Diabetes Mellitus. Clin Exp Nephrol. 2015 Jul 4. [Epub ahead of print]

- Tsutsui H, Nomura K, Kusunoki M, Ishiguro T, Ohkubo T, Oshida Y. Gender differences in the perception of difficulty of self-management in patients with diabetes mellitus: a mixed-methods approach. Diabetology International 2016, in press.
- Chatani Y, Nomura K, Ishiguro A, Jagasi R. Factors Associated with Attainment of Specialty Board Qualifications and Doctor of Medical Science Degrees Among Japanese Female Doctors. Academic Medicine, 2016, in press.
- Okoshi K, Nomura K, Taka F, Fukami K, Tomizawa Y, Kinoshita K, Tomimaga R. Suturing the Gender Gap: Income, Marriage, and Parenthood among Japanese Surgeons. Surgery, 2016, in press.

#### ③女性の働きやすい病院の在り方についての研究

- 野村恭子. 女性医師が定着しやすい病院とは～医師不足時代の新たな戦力創出に向けて～. 第36回病院管理研修会. 栃木県病院協会誌第26号. 2012;3月 pp89-111.
- 堀江早喜,竹内真純,山岡和枝,野原理子,蓮沼直子,沖永寛子,野村恭子. 「女性医師が働きやすい病院」チェックリストの開発. 日本衛生学雑誌2015;70(3):264-270
- 堀江早喜,竹内真純,山岡和枝,野原理子,蓮沼直子,沖永寛子,野村恭子. 「女性医師が働きやすい病院」職場環境尺度の開発. 第73回日本公衆衛生学会学術総会,2014;11月. (宇都宮)

#### ④女性医師・研究者支援の取り組みについて

- Nomura K, Okinaga H. The use of women physicians in physician workforce: challenges and strategies. Academy of Women's Health, 2013, Spring.
- 野村恭子,沖永寛子,竹内武昭,寺本民生,矢野栄二. 帝京大学女性医師・研究者支援センターの取り組み. 第45回医学教育学会. 2013;7月. (千葉)
- Nomura K, Hiroko Okinaga H, Horie S, Takemoto K, Taka F, Sekiya H, Takeuchi M, Uti H, Inoue A, Saito A. Efforts of Teikyo University support center for women doctors and researchers. The Women in Surgery (WIS) symposium, 2015;03, Orlando.

#### ⑤女性の就労環境とワークライフバランスに関する研究

- 竹内真純,堀江早喜,石黒彩,野村恭子. アカデミック・ハラスメント認知に関わる構成要素の検討. 第73回日本公衆衛生学会学術総会. 2014;11月. (宇都宮)
- 堀江早喜,茶谷有紀,竹内真純,関屋晴子,宇井久恵,井上文子,竹本圭佑,沖永寛子,野村恭子. 仕事・家庭の優先度に対する希望と現実のギャップについての検討 (第1報). 第85回日本衛生学会学術総会. 2015;3月 (和歌山).
- 茶谷有紀,堀江早喜,竹内真純,関屋晴子,宇井久恵,井上文子,竹本圭佑,沖永寛子,野村恭子. 仕事・家庭の優先度に対する希望と現実のギャップとバーンアウトの関連 (第2報). 第85回日本衛生学会学術総会. 2015;3月 (和歌山).
- 竹内真純,堀江早喜,野村恭子,沖永寛子,竹本圭介. ワーク・ファミリー・コンフリクトが大学教員の心理的健康と仕事に与える効果. 第56回日本社会心理学会. 2015;11月 (東京).
- 竹内真純,堀江早喜,沖永寛子,野村恭子. 直接的・間接的ハラスメントと職場のサポートが大学教員のバーンアウトに与える効果. 第74回日本公衆衛生学会総会. 2015;11月 (長崎).

さまざまな制度で、  
あなたの働きやすさをサポートしています。



## 環境整備

### 研究支援員の配置

ライフイベントにより時間確保が  
困難な研究者を対象に、  
「研究支援員」を配置。  
研究継続をサポートします。

### 事業所内保育所の 整備・拡大

事業所内保育所を設置・拡大し、  
女性研究者が子育てと研究を両立できる  
環境を整えています。

### 保育支援制度

夜間・休日保育や、病児・病後児  
保育の利用料金を一部補助し、  
子育てと研究の両立を  
支援する制度です。

### 柔軟な勤務体制・特色ある 取り組みで働きやすさを支援

各学部・講座ごとの多様な  
支援制度により、キャリアアップ  
できる環境を整えています。

### 病児・病後児保育

急な発熱や病気の子どもを預けられる  
施設を敷地内に設置しています  
(板橋区委託事業)。

### 相談窓口

女性研究者のキャリアデザインや  
ライフイベントに関するあらゆる  
相談への窓口を開設しています。

## 研究力向上・キャリア教育

### ジャーナルクラブ

大学院生・若手研究者を中心に  
早い段階から研究活動への関心を  
誘導すべく、一流論文雑誌の  
読み解きを実施しています。

### 研究力向上セミナー、 キャリアアップ講演会の開催

外部資金獲得のノウハウや、  
ロールモデルによる講演会など  
研究力向上のためのさまざまな  
セミナーを実施しています。

### メンター制度

若手研究者のニーズに応じ、  
職場内での悩みや問題解決を  
サポートするメンター(先輩研究者)の  
マッチングを行っています。

## 組織の意識改革・エビデンス構築

### シンポジウムの開催

男女共同参画・事業総括シンポジウム  
を開催し、学内における男女共同参画への  
意識向上・啓発に取り組んでいます。

### 調査・エビデンス構築

アンケート、インタビュー調査や論文  
学会発表を通じ、女性研究者の活躍に  
資するエビデンス構築を行っています。

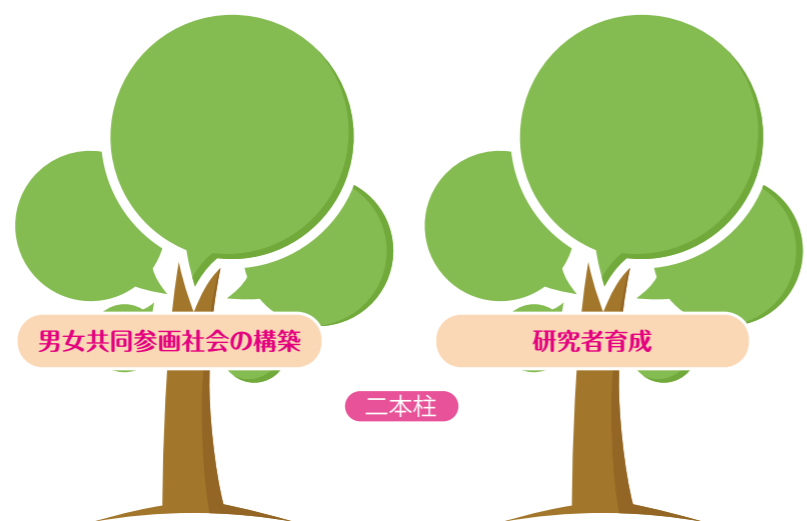
### 情報・コミュニケーション

ホームページや各種WEBツール、  
パンフレット・ニュースレターにより、  
女性支援に関するさまざまな情報を  
発信しています。

# 女性医師・研究者支援センターとは

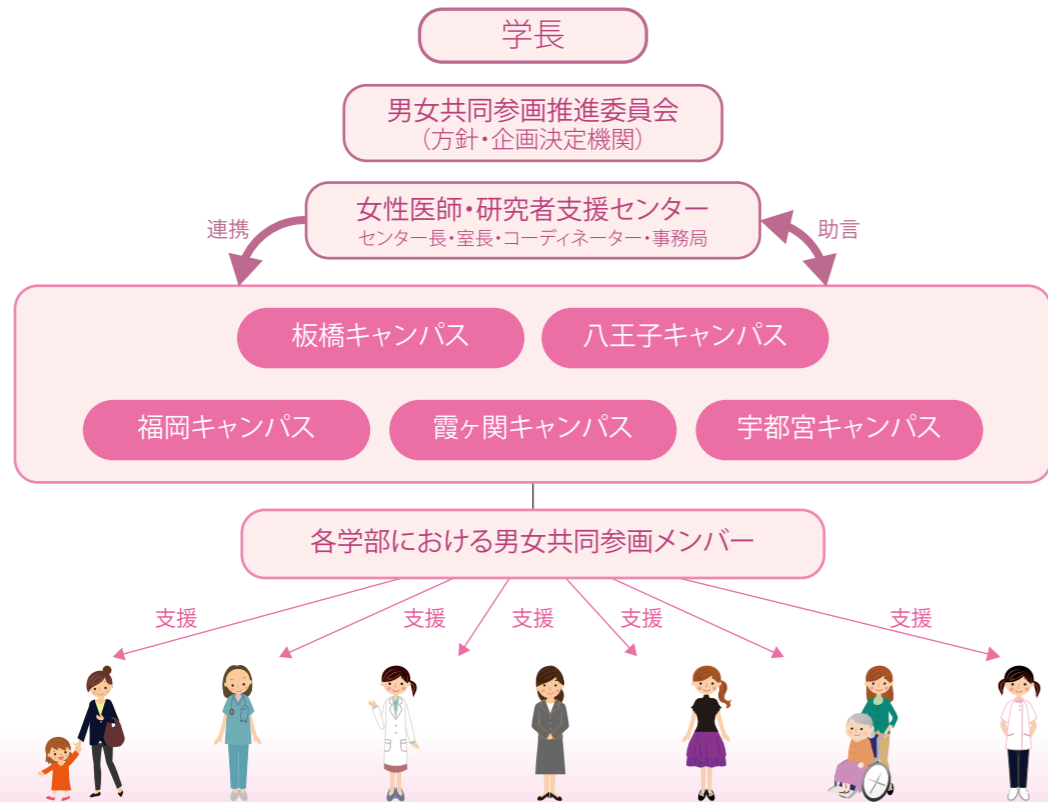
帝京大学女性医師・研究者支援センターは、平成25年、女性研究者がライフイベントと研究を両立しながら生涯にわたって働き続けるための環境整備や各種支援を行うことを目的に設立されました。  
働きやすい環境について評価・分析するなど、広い視点によるサポートで、女性が多様なキャリアパスを選択できるよう働きかけていきます。

## 理念図



女性の潜在能力を最大限に引き出し、女性の社会的役割と両立させながら、質の高い研究活動を生涯にわたって行えるよう、女性医師ならびに研修医や大学院生を含めた全学の研究者育成支援を行います。環境整備を中心とした「男女共同参画社会の構築」と、自然科学系研究者を中心とした女性研究者の育成をめざす「研究者育成」を車の両輪の関係ととらえ、このふたつに注力し活動を行っています。

## 実施体制



# 女性医師・研究者支援センターにお越しください

女性医師・研究者支援センターでは、女性研究者のキャリアデザインやライフイベントに関するあらゆる支援を行っています。  
何かお困りのときはもちろん、気分転換がしたいときなど、お気軽にお立ち寄りください。



開室時間 : 平日9:00~17:00  
 電話 : 03-3964-8456  
 メール : woman@med.teikyo-u.ac.jp

## 帝京で働く女性のためのカフェ・タイム

毎月1~2回、お昼の時間帯に女性医師・研究者支援センターを開放し、カフェタイムを実施しています。楽しいおしゃべりの花を咲かせながら、仲間を作りませんか。



## DVD・書籍貸出し

女性のキャリアデザイン、ワークライフバランス、男女共同参画社会や福祉政策など、女性や男女共同参画社会に関心を持つ人に役立つ本や資料、DVDの貸出しを行っています。



## DVD上映会

出産・育児・子育て、働いていくために必要なキャリアパスの考え方など、女性のライフイベントをテーマとした映像作品の上映会を実施しています。



## 各種相談窓口

女性研究者のキャリアデザインやライフイベントに関するあらゆる相談を行っています。何かお困りのことがあれば、スタッフが誠意を持って対応いたしますので、お気軽にご相談ください。



詳しい日程・内容は女性医師・研究者支援センター WEBサイトからご確認いただけます。

WEBページ  
[http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support\\_center/](http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/)



Facebook  
<https://ja-jp.facebook.com/tscwpr>

